

## 1 単元名 言葉を集めよう～もっと「伝わる」表現をみざして～

## 2 単元設定の理由

## ①単元観

本教材の設定にあたっては、語彙力を高め、自ら進んで表現ができる生徒を育成できるように考えた。教科書には、「言葉は知っているのに、話したり書いたりしようとすると、思うように出てこないこともある。ここでは、自分の中にある言葉を引き出し、表現に生かす練習をしよう」とある。学習指導要領において、第一学年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕イ（ウ）には「多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心を持つこと」が示されている。本教材は、語彙力をつけ、表現力を豊かにすることをねらいとしたものであり、言葉に関心をもって、語彙を学ぶことに適した教材だといえる。また、同時に「B 書くこと エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること」「A 話すこと・聞くこと ウ 相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと」の力も同時につけたいと考えている。生徒達が書く文章には、「今日は〇〇をした。楽しかった。」のように、簡単な表現にとどまっているものも多く、近年の全国学力・学習状況調査においても、中学生の「具体的に詳しく表現する力」が弱いことが指摘されている。本教材は、そういった弱い部分を意欲的に高めるのに、効果のある教材だといえる。

## ②生徒観

授業開きにおいて、「言葉持ちになろう」という話をした。「はじめから」という言葉について、類義語をどれだけ知っているか、という質問をしたところ、答えられた生徒は非常に少なく、答えられた生徒についても、「最初から」という答えを出すことしかできなかった。正解例として、「のっけから」や「はなから」といった言葉を提示しても、その言葉にピンと来ている生徒はほとんどいなかったことから、語彙力が乏しい生徒が多いように感じる。また、一問一答式の知識、規則的な問題を答えることは得意だが、自分の想像の世界を表現することは苦手な生徒が多い。

## ③指導観

本単元ではまず、自分の好きな食べ物の紹介文を何の条件もなく書かせ、自分の言葉がいかに相手に伝わる表現として乏しいかに気付かせる材料として使う。その後、表現力が乏しい食レポと、表現力が豊かな食レポを視聴させ、その違いが語彙力の違いであるということに話し合い活動を通して気付かせたい。その後、班で類語辞典を使って「食感」「味」「量」「温度」「見た目」の観点からおいしさを表現するための言葉を集め、語彙を豊富に知ること、文章に表現力が加わることをねらう。その上で、最初に書いた自分の好きな食べ物の紹介文を再度推敲し、「おいしい」という言葉を使わないで、おいしさを表現した文章を作らせ、自分の文章の変化から、表現の広がりを感じさせたい。また、個人で考えたあとは、学習班の中で意見を共有し、新しい気づきを得ることで語彙力も高めていきたい。

## ④学び合いの視点

おいしさを表現するための言葉をグループで調べ、教え合いをする。また、調べたことをもとに短文を作り、個人に返したときに自分で書けるための環境を作る。その後、最初に書いた紹介文を推敲して書き直し、お互いに紹介し合うことで表現の広がりを感じさせる。

## 3 単元目標

【関心・意欲・態度】図書や辞典などを利用し、興味をもってテーマや観点に沿って言葉を集めようとする。

【話す・聞く能力】話し合いの際に、相手にわかりやすく伝えたり、自分がない考えを聞き取り、相手の意見を尊重した話し合い活動を行っている。

【書く能力】書いた文章を自分や、周りの人と読みあい、自分の表現に役立てることができる。

【言語についての知識・理解・技能】擬音語や擬態語などの効果を理解し、語彙を自分のものにしていく。

- 4 単元の指導計画(全3時間) —評価計画は別紙—  
 第一次 学習の流れを知り、好きな食べ物について紹介文を書く・・・1時間  
 第二次 おいしさに関する言葉を集め、短文を作る・・・1時間(本時)  
 第三次 第一次で書いた紹介文を推敲し、得た言葉を使って文章を書き直す・・・1時間
- 5 本時の目標  
 「おいしい」と言わないで、おいしさを伝える言葉を集め、その言葉を使って短文が書ける。
- 6 準備物 ワークシート、ストップウォッチ、模造紙、類語辞典、マジック
- 7 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点と◆評価
導入	1. モジュールで漢字バトルをする。	・教員が漢字を言い、回答者は分かった時点で早押しボタンを押し、その漢字を使った熟語を言う。
展開	2. 本時の目標を確認する。	
	おいしいと言わないで、おいしさを伝えよう。	
	3. 二つの食レポを視聴して、その違いを考える。	・話し合い活動について大切なことをあらかじめ確認してから活動にうつす。 ・話し合いが苦手な生徒を生徒同士でカバーできるような機会を設ける。
	4. 各班で担当を決め、「食感」「味」「温度」「量」「見た目」で言葉を集める 【学びあい—グループ】	・調べ学習マップを用意し、調べる時間の短縮を図る。 ・「おいしさ」を表す言葉を集めることを再度伝える。 ・教員に聞くのではなく、自分たちで解決できるように促す。
	5. 発表 【学びあい—全体】	・ワークシートに、発表の穴埋め台本を準備しておき、それに沿って発表ができるようにする。
	6. 得た言葉を使って、30文字以内で短文を作る 【個人】	・あらかじめ、この文章は今日の評価につながることを伝える。 ◆発表で得た言葉を使って、30文字以内で自分の言葉で表現している。 【書く】【言語】(ワークシート)  〈Aの生徒への手立て〉 ・30文字を、10文字や50文字に字数を変えて書くよう促す。 〈Cの生徒への手立て〉 ・30文字以内の穴埋めプリントを用意し、いままでのプリントも確認しながら埋めるように促す。  ・発表を聞くことで、自分とは異なる表現について、それぞれの良さに気付かせる。
7. 出来上がった文章を班で読みあい、時間があれば全体に発表をする。		
まとめ	8. 今日の振り返りをする。	・自己評価欄に気付いたことやわかったことをまとめさせる。
	9. 次時の予告を聞く。	・次時は、第一次で書いた紹介文を推敲し、よりよい文章を書いていくことを確認する。